ジオスペース館だより

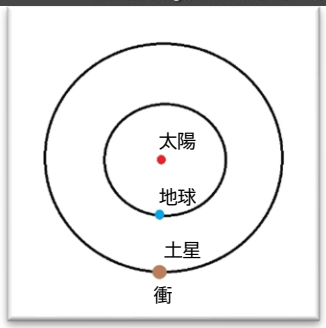
令和６年９月１日

第 724 号

★今月の星もよう★

9月になると、土星がみずがめ座の位置で衝となり観察の好機です。衝とは太陽系において地球よりも外側の惑星が太陽と正反対の位置にくる時をさします。土星は地球からほぼ最近距離（最も近い距離）となり、通常より明るく見える上、夜中に南中するため一晩中観察できます。

衝の土星を目印に、今度は明るい星が無く普段は分かりづらいみずがめ座を探してみましょう。みずがめ座の瓶から流れ落ちる水は、みなみのうお座の1等星フォーマルハウトまでつながっています。みずがめ座の西側には、星の並びが笑った時の口に見えるやぎ座があります。ギリシャ神話において、みずがめ座は大神ゼウスの酒を注ぐガニメデスの姿とされ、みなみのうお座は、怪物テュフォンに追われた女神アフロディーテが魚になって逃げた姿と言われています。また、やぎ座は上半身が人間、下半身がヤギの姿をした牧神パーンが、怪物テュフォンから逃げる際、焦って上半身がヤギ、下半身が魚の姿に誤って化けてしまった姿と言われています。



★天体観望あれこれ★

望遠鏡で様々な天体を見せてもらえる天体観望会。参加する時に気を付けたい事を考えてみましょう。

まずは服装ですが、日中は暑くても夜間は涼しくなる季節です。薄手でも良いので長袖があると良いでしょう。虫刺され対策にもなります。視認性の良い明るめの服がおすすめです。

懐中電灯を持参する場合は、あまり明るすぎないものを選んでください。足元のみを照らすようにし、観望会の最中は出来るだけ点灯させないようにしましょう。周りの人を照らしてはいけません。懐中電灯の光を見てしまうと、一時的に星が見えにくくなってしまうからです。

望遠鏡を覗く時は、なるべく望遠鏡本体に手が触れないようにしましょう。望遠鏡の向きが変わってしまい、望遠鏡の設定のやり直しが必要となる場合があります。覗く所のレンズも触ってはいけません。

その他注意事項として、観察中に走り回ること、星を見上げながら歩くことは大変危険です。転んだり機材を倒したりしたら一大事。係の人の指示に従い、楽しく星空を観察しましょう。

当館でも、「とよかわ★星空観望会」を企画しており、今月は14日に開催予定です。11月、3月にも予定されています。詳しいことは、中央図書館2階事務室までお問い合わせください。

★中秋の名月★

今年は9月17日が中秋の名月です。中秋の名月は日本の伝統的な行事で、旧暦の8月15日にあたります。旧暦では7月・8月・9月が秋とされており、その中間の8月の月が中秋の名月となります。月の満ち欠けの周期は約29.5日なので、満月になる周期と中秋の名月が必ずしも一致するとは限りません。満月の日は18日ですが、中秋の名月の日もほぼまん丸な月を見ることができそうです。

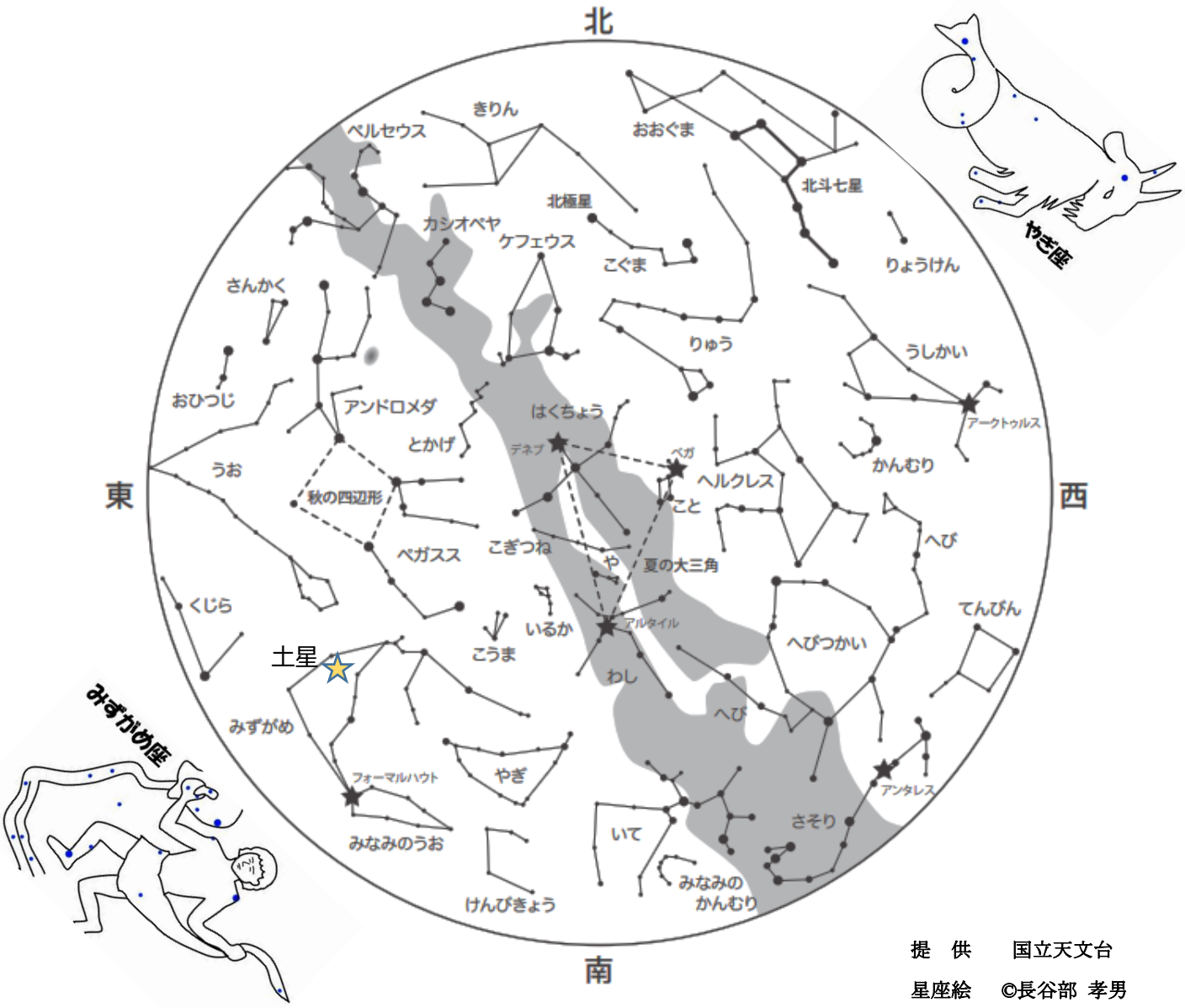
旧暦8月15日に月を愛でる十五夜の習わしは、中国の「中秋節」という月を祀る祭事が日本に伝わり、古くから日本にあった月を祀る風習と合わさったものだと言われています。平安時代に貴族の中に広まり、月にお供え物をするようになったのは室町時代から、お月見団子を供えるようになったのは江戸時代になってからといわれています。日本には他にもサトイモを供えて豊作を感謝する風習があるため、中秋の名月を「芋名月」と呼ぶことがあります。

豊川市ジオスペース館

☆8 月のプラネタリウムの内容については、別刷りの「投影案内」をご覧ください

☆プラネタリウムのお休み　9／2(月)、9(月)、17(火)、18(水)、24(火)、25(水)、30(月)

9月中旬午後8時頃の星空

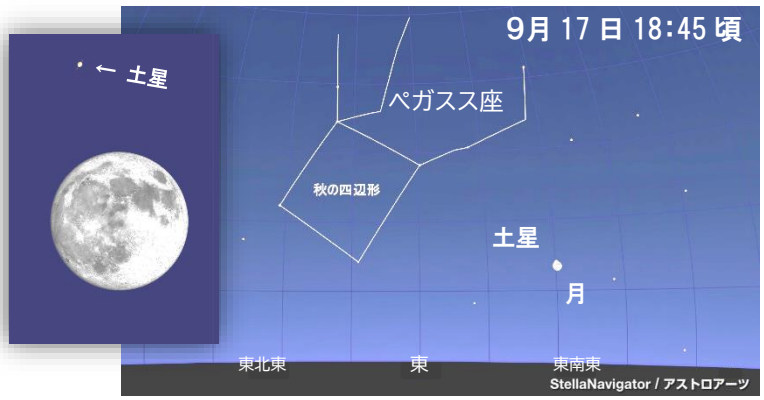


提　供　　国立天文台

星座絵　©長谷部 孝男

★ 9月の主な天文現象 ★

3日(火)	新月
11日(水)	上弦
17日(火)	中秋の名月 月と土星が大接近
18日(水)	満月
22日(日)	秋分の日
25日(水)	下弦

月と土星が大接近。

中秋の名月の日、東から昇って来る月と土星が大接近しています。時間をおいて見てみると、次第に月と土星の位置が変わっていくのが観察できます。